

# CLUSTERPRO<sup>®</sup> X *for Windows*

PPガイド

(WebSAM Netvisor,  
WebSAM NetvisorPro,  
WebSAM NetvisorPro V)

2021.10.05  
第03版

**CLUSTERPRO**

## 改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2012/07/02	ESMPRO/WebSAM(第19版)を分冊し、新規作成
2	2013/04/15	WebSAM NetvisorPro V システム構成を、最新バージョンにあわせて更新
3	2021/10/05	最新バージョン対応に合わせて更新

© Copyright NEC Corporation 2008. All rights reserved.

## 免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいませぬ。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

## 商標情報

CLUSTERPRO® X は日本電気株式会社の登録商標です。

Intel、Pentium、Xeonは、Intel Corporationの登録商標または商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

その他のシステム名、社名、製品名等はそれぞれの会社の商標及び登録商標です。



# 目次

はじめに.....	i
対象読者と目的.....	i
適用範囲.....	i
本書の構成.....	i
CLUSTERPRO マニュアル体系.....	ii
本書の表記規則.....	iii
最新情報の入手先.....	iv
お問合せについて.....	iv
<b>第 1 章                   WebSAM Netvisor.....</b>	<b>1</b>
機能概要.....	1
動作環境.....	1
インストール手順.....	1
アップデートインストール・修正モジュール適用手順.....	4
アンインストール手順.....	4
注意事項.....	5
<b>第 2 章                   WebSAM NetvisorPro.....</b>	<b>7</b>
機能概要.....	7
動作環境.....	7
システム構成例.....	7
インストール手順.....	8
アンインストール手順.....	11
スクリプトの記述例.....	11
<b>第 3 章                   WebSAM NetvisorPro V.....</b>	<b>17</b>
機能概要.....	17
動作環境.....	17
システム構成例.....	17
インストール手順.....	18
アンインストール手順.....	18
スクリプトの記述例.....	18



# はじめに

## 対象読者と目的

『CLUSTERPRO® PPガイド』は、クラスタシステムに関して、システムを構築する管理者、およびユーザサポートを行うシステムエンジニア、保守員を対象にしています。

本書では、CLUSTERPRO環境下での動作確認が取れたソフトウェアをご紹介します。ここで紹介するソフトウェアや設定例は、あくまで参考情報としてご提供するものであり、各ソフトウェアの動作保証をするものではありません。

## 適用範囲

本書は、以下の製品を対象としています。

CLUSTERPRO X 4.3 for Windows  
CLUSTERPRO X 4.2 for Windows  
CLUSTERPRO X 4.1 for Windows  
CLUSTERPRO X 4.0 for Windows  
CLUSTERPRO X 3.3 for Windows  
CLUSTERPRO X 3.2 for Windows  
CLUSTERPRO X 3.1 for Windows  
CLUSTERPRO X 3.0 for Windows  
CLUSTERPRO X 2.1 for Windows  
CLUSTERPRO X 2.0 for Windows  
CLUSTERPRO X 1.0 for Windows

## 本書の構成

- 第 1 章 「WebSAM Netvisor」: WebSAM Netvisor について説明します。
- 第 2 章 「WebSAM NetvisorPro」: WebSAM NetvisorPro について説明します。
- 第 3 章 「WebSAM NetvisorPro V」: WebSAM NetvisorPro V について説明します。

# CLUSTERPRO マニュアル体系

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の 6 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

## 『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』 (Getting Started Guide)

すべてのユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

## 『CLUSTERPRO X インストール&設定ガイド』 (Install and Configuration Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタシステムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの設計方法、CLUSTERPRO のインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

## 『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』 (Reference Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明およびトラブルシューティング情報等を記載します。『インストール&設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

## 『CLUSTERPRO X メンテナンスガイド』 (Maintenance Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO のメンテナンス関連情報を記載します。

## 『CLUSTERPRO X ハードウェア連携ガイド』 (Hardware Feature Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、特定ハードウェアと連携する機能について記載します。『インストール&設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

## 『CLUSTERPRO X 互換機能ガイド』 (Legacy Feature Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、CLUSTERPRO X 4.0 WebManager、Builder および CLUSTERPRO Ver 8.0 互換コマンドに関する情報について記載します。

## 本書の表記規則

本書では、「注」および「重要」を以下のように表記します。

---

**注:** は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

---

**重要:** は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

---

**関連情報:** は、参照先の情報の場所を表します。

---

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[ ] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログ ボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [ ] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	<code>clpstat -s[-h host_name]</code>
モノスペース フォント (courier)	コマンド ライン、関数、パラメータ	<code>clpstat -s</code>
モノスペース フォント太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドプロンプトから入力する値を示します。	以下を入力します。 <code>clpcl -s -a</code>
モノスペース フォント (courier) 斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	<code>clpstat -s [-h host_name]</code>

## 最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

<https://jpn.nec.com/clusterpro/>

## お問合せについて

本書の WebSAM Netvisor 製品に関する記載内容のお問い合わせには、原則として CLUSTERPRO の保守契約と WebSAM Netvisor の保守契約が必要です。

WebSAM Netvisor 製品の障害発生時には、保守契約に則り、以下のNECサポートポータルからNECカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ・ NEC サポートポータル (<https://www.support.nec.co.jp/>)

# 第 1 章 WebSAM Netvisor

## 機能概要

Netvisor は、管理プロトコルとして SNMP(Simple Network Management Protocol)を採用したネットワーク管理システムです。

TCP/IP ベースのネットワーク、およびネットワークに接続されている機器の管理を行います。

Netvisor は、現用系・待機系両サーバにインストールし、管理情報を切替えパーティション上に格納することにより、現用系サーバがダウンした場合でも、待機系サーバで運用を続けることができます。

## 動作環境

Netvisor は通常の動作環境と同様です。

CLUSTERPRO は Windows 版の X1.0 以降をご使用ください。

クラスタシステムでは以下の設定をしてください。

- ・ クラスタシステムで共有ディスクまたはミラーディスクが使用可能な状態にしてください。
- ・ クラスタシステムで FIP が使用可能な状態にしてください。

## インストール手順

### 1. Netvisor のインストール

Netvisor のセットアップカードを参照し、現用系サーバと待機系サーバそれぞれに Netvisor をインストールしてください。

#### 注意

- ・ ESMPRO ユーザーグループは、Netvisor の「WebAccess 機能」を使用する場合は必ず、現用系サーバと待機系サーバでそれぞれローカルグループに作成してください。
- ・ クラスタシステム上の全サーバへのインストール先は同一ドライブ、同一フォルダにしてください。

### 2. サービスの「スタートアップ種類」の変更

下記に示す「Netvisor の関連サービス」のスタートアップ種類を全て「手動」に変更してください。現用系サーバと待機系サーバそれぞれで行ってください。

#### Windows 2000 の場合

- (1) 「コントロールパネル」の「管理ツール」から「サービス」を選択してください。
- (2) スタートアップ種類を変更するサービスを選択し、「プロパティ」の「全般」タブから「スタートアップの種類」を「手動」に変更して下さい。

#### Windows XP の場合

- (1) 「コントロールパネル」の「パフォーマンスとメンテナンス」を選択し「管理ツール」の「サービス」を選択してください。

- (2) スタートアップ種類を変更するサービスを選択し、「プロパティ」の「全般」タブから「スタートアップの種類」を「手動」に変更して下さい。

**Windows Server 2003 の場合**

- (1) 「管理ツール」から「サービス」を選択して下さい。
- (2) スタートアップ種類を変更するサービスを選択し、「プロパティ」の「全般」タブから「スタートアップの種類」を「手動」に変更して下さい。

**Netvisor の関連サービスは以下の通りです。**

- Alert Manager Socket(R) Service
  - Dmi Event Watcher
  - ESM Alert Service
  - ESM Base Service
  - ESM Command Service
  - ESM Expert Service
  - (ESM IPM) ※1
  - ESM Logging Service
  - ESM Remote Map Service
  - ESM Rule Service
  - ESM Trap Service
  - ESM/NV Dns Service
  - ESM/NV Event Watch Service
  - ESM/NV Trouble Ticket Service
- ※1 ESM IPM は Netvisor ルータ管理を導入した場合のみ存在します。

**3. ワークディレクトリの移動**

- (1) 現用系サーバのワークディレクトリ(通常は、¥Program Files¥Esmpro¥Nvwork)を切替えパーティションに移動して下さい。
- (2) 移動したディレクトリにアクセス権を設定します。アクセス権の設定はエクスプローラのプロパティから行います。プロパティの「セキュリティ」タブから「アクセス権」を選択し以下のアクセス権を設定して下さい。

名前	アクセス権の種類
Administrators	フルコントロール
Everyone	読み取り
NvAdmin ※1	フルコントロール
SYSTEM	フルコントロール

※1 Administrators 以外のユーザーグループを作成した場合は、ESMPRO ユーザーグループ名を指定します。(この場合は、ユーザーグループに「NvAdmin」を指定した場合の説明です。)

- (3) 待機系サーバのワークディレクトリを削除して下さい。
- (4) ワークディレクトリへのパスを設定しているレジストリを変更します。

(5) 以下のレジストリ内容をレジストリエディタ(regedit.exe)を使って変更してください。

1. キー: ¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥  
名前: WorkDir  
データ: 移動先のパス
2. キー: ¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥AlertViewer¥  
名前: AlertPath  
データ: 移動先のパス¥alert

現用系サーバと待機系サーバそれぞれで実施してください。

#### 4. レジストリ同期リソースの登録

Cluster Builder から Netvisor の使用するレジストリを同期レジストリとして登録します。

同期レジストリは Cluster Builder のフェイルオーバーグループで設定します。「リソースの追加」で「レジストリ同期リソース」タイプを選択して、以下のレジストリを追加してください。

¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE  
¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Nvbase

#### 5. サービスリソースの登録

Cluster Builder から Netvisor の使用するサービスをサービスリソースとして登録します。

サービスリソースは Cluster Builder のフェイルオーバーグループで設定します。「リソースの追加」で「サービスリソース」タイプを選択して、以下のサービスと依存関係を追加してください。

また必要に応じて、追加したサービスをモニタリソースに登録してください。

ESM Base Service

以下のサービスには依存関係に”ESM Base Service”を設定してください。

Alert Manager Socket(R) Service  
ESM Alert Service  
ESM Command Service  
ESM Logging Service  
ESM Remote Map Service  
ESM Trap Service  
ESM/NV Dns Service  
ESM/NV Event Watch Service  
(ESM IPM) ※1

※1 ESM IPM は Netvisor ルータ管理を導入した場合のみ存在します。

以下のサービスには依存関係に”ESM Base Service”と”ESM Alert Service”を設定してください。

Dmi Event Watcher

以下のサービスには依存関係に”ESM/NV Event Watch Service”を設定してください。

ESM/NV Trouble Ticket Service

以下のサービスには依存関係に”ESM/NV Trouble Ticket Service”を設定してください。

ESM Expert Service  
ESM Rule Service

マシンを再起動して下さい。

Cluster Builder の詳細は、「CLUSTERPRO インストール & 設定ガイド」または「CLUSTERPRO リファレンスガイド」を参照してください。

## アップデートインストール・修正モジュール適用手順

### アップデートインストール・修正モジュールの適用

現用系サーバと待機系サーバそれぞれにインストールしてください。

#### 注意

インストールする際は、ワークディレクトリがある切替えパーティションにアクセス可能な状態にしてください。アクセスできない場合、インストールに失敗します。

## アンインストール手順

### 1. レジストリ同期リソースの削除

Cluster Builder 上で登録した同期レジストリを削除します。

同期レジストリは Cluster Builder のフェイルオーバーグループで設定します。以下のレジストリを削除してください。

```
¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE  
¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Nvbase
```

### 2. サービスリソースの削除

Cluster Builder 上で追加した Netvisor 関連のサービスのサービスリソースを削除します。

サービスリソースは Cluster Builder のフェイルオーバーグループで設定します。「インストール手順」で追加したサービスリソースを削除してください。

### 3. Netvisor のアンインストール

Netvisor のセットアップカードを参照し現用系サーバと待機系サーバそれぞれから Netvisor をアンインストールしてください。アンインストール後にマシンを再起動して下さい。

## 注意事項

- ◆ マネージャ間通信の設定について  
クラスタシステムを参照する場合、IPアドレスにはFIPのアドレスを指定して下さい。物理IPアドレスを指定すると、正常に機能しません。
- ◆ SNMP Trap送信の設定について  
クラスタシステムへSNMP Trapを送信する場合、IPアドレスにはFIPのアドレスを指定してください。物理IPアドレスを指定すると、正常に機能しません。
- ◆ SNMP トラップの受信方式の変更について  
ESMPROのカスタマイズ機能でSNMPTラップ受信方式を変更することができます。変更した場合には、サーバの再起動をしてください。
- ◆ Netvisor LAN管理エージェントについて  
LAN管理エージェントはクラスタシステム上で使用することはできません。
- ◆ Netvisor ルータ管理について  
ルータ管理で背景ビットマップにカスタマイズしたものをを使用する場合は、作成したビットマップファイルを切替えパーティションに置いてください。サーバが切り替わると、背景ビットマップが参照できなくなります。
- ◆ Netvisor NodeManagerについて  
Netvisor NodeManagerはクラスタシステム上で使用することはできません。



## 第 2 章

# WebSAM NetvisorPro

### 機能概要

WebSAM NetvisorPro(以下 NetvisorPro)は、ネットワークの構成・障害・性能を監視する機能に加え、マルチベンダ機器の設定機能を提供します。更に保守業務に必要なコンフィグファイルのバックアップ・リストア、ソフトウェアバージョンアップを容易化する機能も提供します。

NetvisorPro は、現用系・待機系両サーバにインストールし、管理情報を切替えパーティション上に格納することにより、現用系サーバがダウンした場合でも、待機系サーバで運用を続けることができます。

### 動作環境

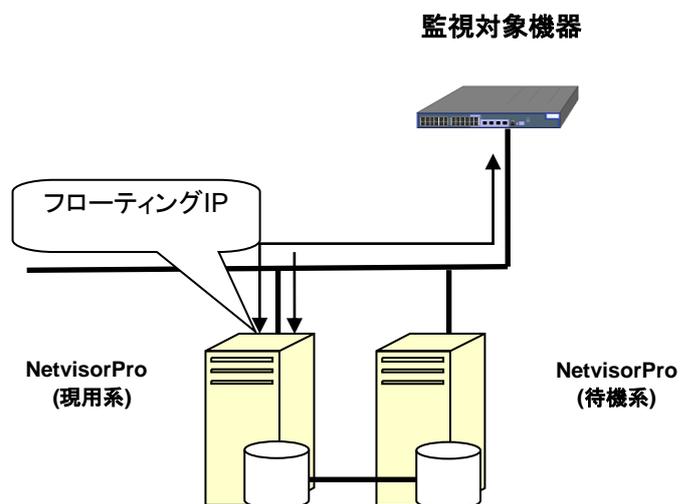
通常の NetvisorPro の動作環境と同様です。

クラスタシステムでは以下の設定をしてください。

- クラスタシステムで共有ディスクまたはミラーディスクが使用可能な状態にしてください。
- クラスタシステムでフローティング IP が使用可能な状態にしてください。

### システム構成例

以下の図のように、NetvisorPro をインストールするマシンをクラスタ構成にします。



## インストール手順

### 1. クラスタシステム環境の確認

NetvisorPro をインストールするクラスタシステムで以下の設定をしてください。

クラスタシステムで共有ディスクまたはミラーディスクが使用可能な状態にしてください。

クラスタシステムで仮想 IP またはフローティング IP が使用可能な状態にしてください。

<<フェイルオーバー時に予定する動作>>

- (1) サーバA障害発生
- (2) サーバAで停止用スクリプトによりサービス停止/データベース切断処理実行
- (3) サーバBにフェイルオーバーグループが移動
- (4) サーバBで開始用スクリプトによりデータベース接続/サービス起動処理実行
- (5) フェイルオーバー完了(復旧時にはフェイルオーバーグループを手動で移動)
- (6) サーバA障害復旧/正常起動
- (7) サーバBからサーバAにフェイルオーバーグループを移動
- (8) サーバBで停止用スクリプトによりサービス停止/データベース切断処理実行
- (9) サーバAで開始用

### 2. NetvisorPro のインストール

「NetvisorPro セットアップカード」を参照し、現用系サーバに NetvisorPro をインストールしてください。

※現用系サーバにインストール終了後、NetvisorPro の全サービスが停止されていることを確認した上で、NetvisorPro インストールディレクトリとデータベース格納ディレクトリ内のすべてのファイルを削除または他ディレクトリに退避させます。

「NetvisorPro セットアップカード」を参照し、待機系サーバに NetvisorPro をインストールしてください。

#### 注意

- ◆ クラスタシステム上の全サーバへのインストール先は同一ドライブ、同一フォルダにしてください。
- ◆ NetvisorProインストールディレクトリとデータベース格納ディレクトリは、共有ディスクまたはミラーディスク上のディレクトリを指定してください。
- ◆ ESMPROユーザーグループにAdministrators以外を指定した場合は、現用系サーバと待機系サーバでそれぞれローカルグループに作成してください。

### 3. サービスの「スタートアップ種類」の変更

下記に示す NetvisorPro の関連サービスのスタートアップ種類をすべて「手動」に変更してください。現用系サーバと待機系サーバそれぞれで行ってください。

- (1) 「管理ツール」から「サービス」を選択してください。
- (2) スタートアップ種類を変更するサービスを選択し、「プロパティ」の「全般」タブから「スタートアップの種類」を「手動」に変更してください。  
Alert Manager Socket(R) Service

ESM Alert Service  
 ESM Base Service  
 ESM Command Service  
 ESM Expert Service  
 (ESM IPM) ※1  
 ESM Logging Service  
 ESM Remote Map Service  
 ESM Rule Service  
 ESM Trap Service  
 ESM/NV Dns Service  
 ESM/NV Event Watch Service  
 ESM/NV Trouble Ticket Service  
 NVPRO Watch Service

※1 ESM IPM は Netvisor ルータ管理を導入した場合のみ存在します。

#### 4.ワークディレクトリの移動

- (1) 現用系サーバのワークディレクトリ  
 (通常は、¥Program Files¥ESMPRO¥NVWORK) を共有ディスクまたはミラーディスク上に移動してください。
- (2) 移動したディレクトリにアクセス権を設定します。アクセス権の設定はエクスプローラのプロパティから行います。プロパティの「セキュリティ」タブから「アクセス権」を選択し以下のアクセス権を設定してください。

名前	アクセス権の種類
Administrators	フルコントロール
Everyone	読み取り
NvAdmin※1	フルコントロール
SYSTEM	フルコントロール

※Administrators以外のユーザーグループを作成した場合は、ESMPROユーザーグループ名を指定します。(上記は、ユーザーグループに「NvAdmin」を指定した場合の説明です。)

待機系サーバのワークディレクトリを削除してください。  
 ワークディレクトリへのパスを設定しているレジストリを変更します。  
 以下のレジストリ内容を、レジストリエディタ(regedit[Windows XP, Windows Server 2003]またはregedt32[Windows 2000]) を使って変更してください。  
 現用系サーバと待機系サーバそれぞれで実施してください。

キー: ¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥

名前: WorkDir

データ: “移動先のパス”

キー: ¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥AlertViewer¥

名前: AlertPath

データ: “移動先のパス¥alert”

キー: ¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥

名前: DiosasFilter

データ: “移動先のパス¥Alert¥filter¥odiosasg”

キー: ¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥

名前: GeneralFilter

データ: “移動先のパス¥Alert¥filter¥genericsg”

#### 5.同期レジストリの登録

CLUSTERPROに同期レジストリとして以下を登録します。

¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE

¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Nvbase

#### 6.起動/停止スクリプトの編集

後述する「スクリプト記述例」を参考に、CLUSTERPROの起動/停止スクリプトの編集を行います。

#### 7.SIDの同期

待機系サーバで以下のコマンドを実行し、表示されたSIDを記録してください。

```
> osql -E -S 127.0.0.1¥nvpro
```

```
> SELECT SUSER_SID('nv');
```

```
> go
```

待機系サーバを稼働状態にする。

現用系サーバで以下のコマンドを実行し、nvユーザのSIDを待機系と同じものに変更する

```
> osql -E -S 127.0.0.1¥NVPRO
```

```
# masterからnvユーザを削除
```

```
> use master
```

```
> EXEC sp_dropuser 'nv'
```

```
> go
```

```
# nvログインを削除
```

```
> EXEC sp_droplogin 'nv'
```

```
> go
```

```
# nvログインをSID指定で作成
```

```
# 0x*****は待機系サーバで取得したSIDを入力してください。
```

```
> EXEC sp_addlogin'nv','nvpwd',default,default,0x*****;
```

```
> go
```

```
# OSのパスワードのポリシーが6文字以上に設定されているなどの理由で、上記の
```

```
# コマンドが失敗する場合があります。その場合は以下のコマンドでnvログインを
```

```
# 作成してください。
```

```
> CREATE LOGIN nv WITH PASSWORD = 'nvpwd', CHECK_POLICY=OFF,SID=0x*****;
```

```
> go
```

```
# 表示されたSIDが①と同じ値であれば、設定完了です。
```

```
> SELECT SUSER_SID('nv');
```

```
> go
```

## アンインストール手順

### 1.同期レジストリの削除

CLUSTERPRO に登録した同期レジストリから、以下のレジストリを削除します。  
¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE  
¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Nvbase

### 2.起動/停止スクリプトの編集

CLUSTERPRO の起動/停止スクリプトから、NetvisorPro 関連の記述を削除します。

### 3.NetvisorPro のアンインストール

共有ディスクまたはミラーディスク上に格納されている、NetvisorPro インストールディレクトリとデータベース格納ディレクトリを他のディレクトリにコピーします。

「NetvisorPro セットアップカード」を参照し、現用系サーバから NetvisorPro をアンインストールしてください。

コピーして置いた NetvisorPro インストールディレクトリとデータベース格納ディレクトリを元に戻します。

「NetvisorPro セットアップカード」を参照し、待機系サーバから NetvisorPro をアンインストールしてください。

アンインストール後にマシンを再起動してください。

## スクリプトの記述例

### 1. 起動スクリプト

NetvisorPro インストール時に指定したデータベース格納ディレクトリを「X:¥NetvisorPro¥db」とした場合の起動スクリプトの記述例を記載します。網掛け部分が NetvisorPro の記述部分です。

(略)

```
rem *****
rem 通常起動対応処理
rem *****
:NORMAL

rem ディスクチェック
IF "%CLP_DISK%" == "FAILURE" GOTO ERROR_DISK

rem #####
rem アタッチ処理
rem #####

osql -E -d master -S %computername%¥nvpro -Q "EXEC sp_attach_db @dbname = 'nvpro',@filename1 =
'X:¥NetvisorPro¥db¥nvprodat.mdf',@filename2 = 'X:¥NetvisorPro¥db¥nvprolog.ldf'" -b

IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (
  ARMLOG "ERROR ATTACH nvpro DB" /arm
) ELSE (
  ARMLOG "SUCCESS ATTACH nvpro DB" /arm
)

osql -E -d master -S %computername%¥nvpro -Q "EXEC sp_attach_db @dbname = 'pd_syslog',@filename1 =
```

```
'X:¥NetvisorPro¥db¥pd_syslogdat.mdf',@filename2 = 'X:¥NetvisorPro¥db¥pd_sysloglog.ldf'" -b
```

```
IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (  
  ARMLOG "ERROR ATTACH pd_syslog DB" /arm  
) ELSE (  
  ARMLOG "SUCCESS ATTACH pd_syslog DB" /arm  
)
```

```
osql -E -d master -S %computername%¥nvpro -Q "EXEC sp_attach_db @dbname = 'pd_trap_mng',@filename1 = 'X:¥NetvisorPro¥db¥pd_trap_mngdat.mdf',@filename2 = 'X:¥NetvisorPro¥db¥pd_trap_mnglog.ldf'" -b
```

```
IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (  
  ARMLOG "ERROR ATTACH pd_trap_mng DB" /arm  
) ELSE (  
  ARMLOG "SUCCESS ATTACH pd_trap_mng DB" /arm  
)
```

```
osql -E -d master -S %computername%¥nvpro -Q "EXEC sp_attach_db @dbname = 'nvmf',@filename1 = 'X:¥NetvisorPro¥db¥nvmfdat.mdf',@filename2 = 'X:¥NetvisorPro¥db¥nvmflog.ldf'" -b
```

```
IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (  
  ARMLOG "ERROR ATTACH nvmf DB" /arm  
) ELSE (  
  ARMLOG "SUCCESS ATTACH nvmf DB" /arm  
)
```

```
osql -E -d master -S %computername%¥nvpro -Q "EXEC sp_attach_db @dbname = 'nvsm',@filename1 = 'X:¥NetvisorPro¥db¥nvsm.dat.mdf',@filename2 = 'X:¥NetvisorPro¥db¥nvsmlog.ldf'" -b
```

```
IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (  
  ARMLOG "ERROR ATTACH nvsm DB" /arm  
) ELSE (  
  ARMLOG "SUCCESS ATTACH nvsm DB" /arm  
)
```

```
osql -E -d master -S %computername%¥nvpro -Q "EXEC sp_attach_db @dbname = 'kn_mst',@filename1 = 'X:¥NetvisorPro¥db¥kn_mst.dat.mdf',@filename2 = 'X:¥NetvisorPro¥db¥kn_mstlog.ldf'" -b
```

```
IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (  
  ARMLOG "ERROR ATTACH kn_mst DB" /arm  
) ELSE (  
  ARMLOG "SUCCESS ATTACH kn_mst DB" /arm  
)
```

```
rem #####  
rem NetvisorPro関連サービスの起動  
rem #####
```

```
ARMLOG "NetvisorProサービス開始" /arm  
net start Nvbase  
net start Nvcmd  
net start Nvipmd  
net start Nvlogd  
net start Nvrmapd  
net start Nvintd  
net start Nvdnsd  
net start ESMASVNT  
net start DmiEventWatcher  
net start AlertManagerSocketReceiveService  
net start AMVSCKR  
net start Nvwatchd  
net start Nvtrickd  
net start Nvexpd  
net start Nvexrld  
net start nvpWatchServ
```

```
rem nvpWatchServの起動状態を監視します。  
ARMLOG "NVPRO Watch Serviceの監視開始" /arm  
ARMLOAD.EXE id_nvpWatchServ /S /A /M /FOV nvpWatchServ
```

```
rem *****  
rem 業務通常処理  
rem *****
```

```
rem プライオリティ チェック  
IF "%CLP_SERVER%" == "OTHER" GOTO ON_OTHER1
```

```
rem *****  
rem 最高プライオリティ での処理  
rem (例) ARMBICAST /MSG "最高プライオリティサーバで起動中です" /A  
rem *****  
GOTO EXIT
```

```
:ON_OTHER1  
rem *****  
rem 最高プライオリティ 以外での処理  
rem (例) ARMBICAST /MSG "プライオリティサーバ以外で起動中です" /A  
rem *****  
GOTO EXIT
```

```
rem *****  
rem リカバリ対応処理  
rem *****  
:RECOVER
```

```
rem *****  
rem クラスタ復帰後のリカバリ処理  
rem *****
```

```
GOTO EXIT
```

```
rem *****  
rem フェイルオーバー対応処理  
rem *****  
:FAILOVER
```

```
rem ディスクチェック  
IF "%CLP_DISK%" == "FAILURE" GOTO ERROR_DISK
```

(通常起動対応処理と同じ)

(略)

---

## 2. 停止スクリプト

停止スクリプトの記述例を記載します。網掛け部分が NetvisorPro の記述部分です。

(略)

```
rem *****
rem 通常終了対応処理
rem *****
:NORMAL

rem #####
rem nvpWatchServ の監視をキャンセル
rem #####
ARMLOG "NVPRO Watch Serviceの監視停止" /arm
ARMKILL.EXE id_nvpWatchServ /C

rem #####
rem NetvisorPro 関連サービスの停止
rem #####
ARMLOG "NetvisorProサービス停止" /arm
net stop nvpWatchServ
net stop nvbase /y
net stop nvpWebAppServ

rem #####
rem デタッチ処理
rem #####
osql -E -d master -S %computername%¥nvpro -Q "EXEC sp_detach_db @dbname = 'nvpro',@skipchecks =
'TRUE'" -b
IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (
    ARMLOG "ERROR DETACH nvpro DB" /arm
) ELSE (
    ARMLOG "SUCCESS DETACH nvpro DB" /arm
)
osql -E -d master -S %computername%¥nvpro -Q "EXEC sp_detach_db @dbname = 'pd_syslog',@skipchecks =
'TRUE'" -b
IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (
    ARMLOG "ERROR DETACH pd_syslog DB" /arm
) ELSE (
    ARMLOG "SUCCESS DETACH pd_syslog DB" /arm
)
osql -E -d master -S %computername%¥nvpro -Q "EXEC sp_detach_db @dbname =
'pd_trap_mng',@skipchecks = 'TRUE'" -b
IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (
    ARMLOG "ERROR DETACH pd_trap_mng DB" /arm
) ELSE (
    ARMLOG "SUCCESS DETACH pd_trap_mng DB" /arm
)
osql -E -d master -S %computername%¥nvpro -Q "EXEC sp_detach_db @dbname = 'nvmf',@skipchecks =
'TRUE'" -b
IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (
    ARMLOG "ERROR DETACH nvmf DB" /arm
) ELSE (
    ARMLOG "SUCCESS DETACH nvmf DB" /arm
)
osql -E -d master -S %computername%¥nvpro -Q "EXEC sp_detach_db @dbname = 'nvsm',@skipchecks =
'TRUE'" -b
IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (
```

```

ARMLOG "ERROR DETACH nvsm DB" /arm
) ELSE (
ARMLOG "SUCCESS DETACH nvsm DB" /arm
)
osql -E -d master -S %computername%\¥nvpro -Q "EXEC sp_detach_db @dbname = 'kn_mst',@skipchecks =
'TRUE'" -b
IF "%ERRORLEVEL%" == "1" (
ARMLOG "ERROR DETACH kn_mst DB" /arm
) ELSE (
ARMLOG "SUCCESS DETACH kn_mst DB" /arm
)

```

```

rem ディスクチェック
IF "%CLP_DISK%" == "FAILURE" GOTO ERROR_DISK

```

```

rem *****
rem 業務通常処理
rem *****

```

```

rem プライオリティ チェック
IF "%CLP_SERVER%" == "OTHER" GOTO ON_OTHER1

```

```

rem *****
rem 最高プライオリティ での処理
rem (例)ARMBCAST /MSG "最高プライオリティサーバで終了中です" /A
rem *****
GOTO EXIT

```

```

:ON_OTHER1
rem *****
rem 最高プライオリティ 以外での処理
rem (例)ARMBCAST /MSG "プライオリティサーバ以外で終了です" /A
rem *****
GOTO EXIT

```

```

rem *****
rem フェイルオーバー対応処理
rem *****
:FAILOVER

```

(通常終了対応処理と同じ)

```

rem ディスクチェック
IF "%CLP_DISK%" == "FAILURE" GOTO ERROR_DISK

```

(略)

---



## 第 3 章

# WebSAM NetvisorPro V

### 機能概要

WebSAM NetvisorPro V(以下 NetvisorPro)は、ネットワークの構成・障害・性能を監視する機能に加え、マルチベンダ機器の設定機能を提供します。更に保守業務に必要なコンフィグファイルのバックアップ・リストア、ソフトウェアバージョンアップを容易化する機能も提供します。

NetvisorPro は、現用系・待機系両サーバにインストールし、管理情報を切替えパーティション上に格納することにより、現用系サーバがダウンした場合でも、待機系サーバで運用を続けることができます。

### 動作環境

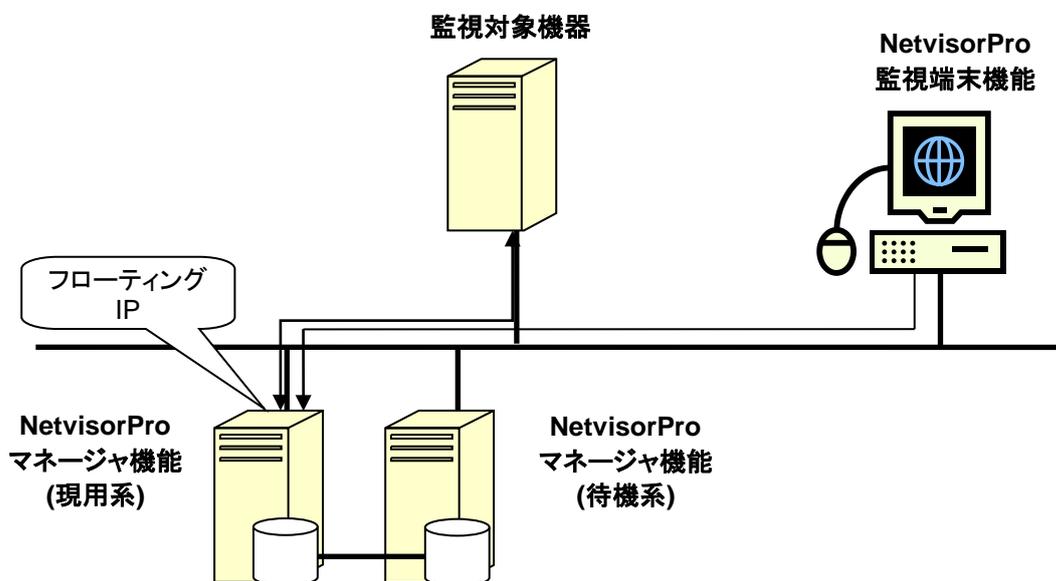
通常の NetvisorPro の動作環境と同様です。

クラスタシステムでは以下の設定をしてください。

- ・ クラスタシステムで共有ディスクまたはミラーディスクが使用可能な状態にしてください。
- ・ クラスタシステムでフローティング IP が使用可能な状態にしてください。

### システム構成例

以下の図のように、マネージャマシンをクラスタ構成にし、監視端末 PC からフローティング IP を利用して、マネージャマシンへアクセスします。



V4.0 以前のバージョンの場合、マネージャマシンには、NetvisorPro のマネージャ機能に加え、WebSAM Unified Management Framework のマネージャ機能をセットアップする必要があります。

## インストール手順

バージョン 2.0 以前の場合、WebSAM NetvisorPro V リリースメモを参照してください。

バージョン 3.0 以降の場合、WebSAM NetvisorPro V リリースメモを参照の上、ご利用の環境にあわせたセットアップガイドを参照してください。

## アンインストール手順

バージョン 2.0 以前の場合、WebSAM NetvisorPro V リリースメモを参照してください。

バージョン 3.0 以降の場合、WebSAM NetvisorPro V リリースメモを参照の上、ご利用の環境にあわせたセットアップガイドを参照してください。

## スクリプトの記述例

バージョン 2.0 以前の場合、WebSAM NetvisorPro V リリースメモを参照してください。

バージョン 3.0 以降の場合、WebSAM NetvisorPro V リリースメモを参照の上、ご利用の環境にあわせたセットアップガイドを参照してください。